家族の絆を強めること 命の大切さを伝えること これが私の使命です

人 HITO

伊深佳洋子さん（助産婦）

「今朝の1時に出産があったので、ちょっと散らかってますが…」と言いながら笑顔で迎えてくださったのは、市内でマタニティルームを開いている伊深さん。その印象は、穏やかで懐の深い、元気なお母さんという感じです。この笑顔で、妊娠後、出産から子育ての相談まで幅広く受け、25年間の病院での助産婦の経験を生かして平成8年に狭山市で開業してから、すでに148人の赤ちゃんを無事にとりあげてきました。

伊深さんが心がけていることは、四つあります。一つめは自然に産むこと。二つめは母乳で育てることの大切さを全てのお母さんに伝えること。三つめはお父さんと兄弟などの家族にも立ち会ってもらって出産し、家族の絆を強めてもらうこと。四つめは出産に関わることによって、お母さんはもとより、どんな人にも命の大切さを実感してもらうこと。この言葉のとおり、伊深さんがお手伝いをして生まれた赤ちゃんには心温まる家族のエピソードがたくさんあり、四季折々に届く『その後』の報告はがきや写真が壁いっぱいに飾ってあります。

「私は、赤ちゃんが生まれるとすぐにお母さんの隣に寝かせます。そうすると、病院で働いていたときに新生児室でたくさん見てきた赤ちゃんとは全然違う、安心しきった表情になるんです。赤ちゃんにとってお母さんって『絶対』だし、お母さんもこんなに可愛い表情で精一杯生きている赤ちゃんに、たくさんの愛情を注げますしね。」と伊深さん。その胸には、ほんの数時間前に生まれた赤ちゃんが、小さな手を動かしながら気持ちよさそうに抱かれています。

「赤ちゃんの瞳って、本当にきれいですよね。いつも赤ちゃんが生まれると、『人生の大先輩がまた一人誕生した』という気持ちで話しかけるんです。そして、この瞳がいつまでも濁ることのないよう願います。」そう語りながら、「この仕事をしていると『もっとたくさんの人が生命の誕生に関わったら、この世の中にいじめとか虐待なんて、きっとなくなるんじゃないか。』って思うんです。」と、今までとりあげた何千人もの赤ちゃん一人ひとりを思い起こすように、優しい目になりました。

目下の目標は、お母さんが集まれるミーティングルームを作ること。「悩みを抱えたお母さんが、『一人じゃない、みんな同じだ。』って思えるような、だれもが話せる場所を作って、そこに少しだけ専門的な知識と方向性を与えながら、見守っていきたいです。」

植物・生き物／しょくぶつ・いきもの

さやまの生態系 Vol.58

クサシギ（チドリ目シギ科）

全長約24㎝。上面は緑色がかった灰褐色に小さい白色斑があり、下面は白色で、眼の周囲は白です。飛ぶときは翼の上面、下面とも黒色で、腰の白色が目立ちます。くちばしは黒くまっすぐで、足は黒緑色です。ユーラシア大陸の中部、北部で繁殖し、アフリカ、インド、中国などで越冬するこのシギは、日本では旅鳥として、少数が本州以南で越冬するのを見ることができます。流れのある水辺を好み、昆虫や小型のカニなどを食べています。

撮影：県生態系保護協会狭山支部 矢内昭夫さん（水野）